| ラウンドA | 日本語 | ブルー社用審査票 | 対戦番号 | | レッド社 | ブルー社 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |

| ラウンド | ● ④ |
|---|---|
| 日／英 | ● ⑥ |

| レッド | ⑩ |
|---|---|
| ブルー | ● |

| 大学 | チーム |
|---|---|
| | |

| 審査員 | ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ |
|---|---|
| | ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ① ② ③ |

| 大学 | ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ |
|---|---|
| | ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ |
| チーム | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ |

| 審査員氏名 | 合計得点 |
|---|---|
| | |

| 対戦番 | ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ |
|---|---|
| | ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ |

| No. | 項目 | 審査のポイント | 3が標準です ↓ | 得点 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 準備書面の説得力 | 各論点について、関係する事実や法文等根拠が適切に示されているか。<br>論理的で説得力ある主張がなされているか。 | 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5<br>① ①.5 ② ②.5 ③ ③.5 ④ ④.5 ⑤<br>不可 可 良 優 特優 | |
| 2 | 準備書面の表現と構成 | 正確で分かりやすい表現が用いられているか。<br>読みやすく、見易い工夫がなされているか。<br>全体の構成は適切か。 | 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5<br>① ①.5 ② ②.5 ③ ③.5 ④ ④.5 ⑤<br>不可 可 良 優 特優 | |
| 3 | 論点1 | 主張すべき事実、法律論を適時に、かつ、明確に主張したか。<br>全体として説得力のあるものであったか。 | 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5<br>① ①.5 ② ②.5 ③ ③.5 ④ ④.5 ⑤<br>不可 可 良 優 特優 | |
| 4 | 論点2 | 主張すべき事実、法律論を適時に、かつ、明確に主張したか。<br>全体として説得力のあるものであったか。 | 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5<br>① ①.5 ② ②.5 ③ ③.5 ④ ④.5 ⑤<br>不可 可 良 優 特優 | |
| 5 | 仲裁人への対応 | 仲裁人からの問いかけや指示に対して、<br>的確かつ機敏に対応していたか。 | 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5<br>① ①.5 ② ②.5 ③ ③.5 ④ ④.5 ⑤<br>不可 可 良 優 特優 | |
| 6 | 相手方の主張等への対応 | 相手方の主張や反論に的確に対応できていたか。<br>攻撃防御の展開において、イニシアティブがとれていたか。 | 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5<br>① ①.5 ② ②.5 ③ ③.5 ④ ④.5 ⑤<br>不可 可 良 優 特優 | |
| 7 | 事実関係 | 事実関係についての正確な理解がなされていたか。<br>事実に関するデータが適切に調査・活用されていたか。 | 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5<br>① ①.5 ② ②.5 ③ ③.5 ④ ④.5 ⑤<br>不可 可 良 優 特優 | |
| 8 | 冒頭陳述・最終弁論 | 冒頭陳述は全体としての主張が理解できる効果的なものであったか。<br>最終弁論は審理の内容を踏まえた効果的なものであったか。<br>時間を有効に使ったか。 | 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5<br>① ①.5 ② ②.5 ③ ③.5 ④ ④.5 ⑤<br>不可 可 良 優 特優 | |
| 9 | 発表 発言 態度 | 明瞭で自信をもった発言をしていたか。<br>過度に慌てたり感情的になることはなかったか。<br>言葉遣いや振舞いは仲裁に臨む代理人として適切であったか。 | 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5<br>① ①.5 ② ②.5 ③ ③.5 ④ ④.5 ⑤<br>不可 可 良 優 特優 | |
| 10 | チームワーク | チーム全員が適切に役割分担していたか。<br>特定の個人のみが突出していなかったか。<br>あまり貢献していない人はいなかったか。 | 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5<br>① ①.5 ② ②.5 ③ ③.5 ④ ④.5 ⑤<br>不可 可 良 優 特優 | |

| 良い例 | ● |
|---|---|
| 悪い例 | ∅ ⊙ ◐ |

<審査にあたっての留意事項>

①評価は絶対評価とします。

②得点欄に得点を記入するとともに、マークしてください。０．５点単位で中間値を用いても結構です。
得点欄の数字とマークされたスコアが一致しない場合には、得点欄の数字を優先します。

③評価にあたっては、チームの構成（学部生主体か大学院生主体か、法曹実務・企業法務経験を有しているか）も踏まえ、チームのパフォーマンスが審査員の通常期待するレベルであれば３、それ以上のレベルには４、極めて優れたレベルであった場合には５、やや物足りない場合には２、非常に物足りない場合には１を付けてください。

④「３良」が普通の出来、いわば審査のホームポジション（基準ライン）です。チームに社会人経験、法曹実務家経験等のある学生がいる場合には、通常期待するレベルを高くしてください。

⑤審査は個々の審査員が独立して行いますが、正確と公平を期すために、審査票を提出される前に、得点についての意見交換を行って下さい。